現状知り福島応援を

23日、トークイベント
独身女性の声発信

埼玉の非営利型社団法人

埼玉県の非営利型一般社団法人チームともだち（登内芳也代表理事）などが主催する福島応援トークイベントは23日、北上市大通りのきたかみ復興ステーションで開かれる。福島県在住で震災後、福島の独身女性の声の発信などに取り組んでいる日塔マキさん（29）が現状を語る。入場無料。

同法人によると、日塔さんは1983年福島県郡山市生まれ。イベント制作会社を経て、ラジオパーソナリティーとして活躍。元「ミス郡山」の経歴も持つ。震災後、一時千葉県に避難。その後、福島の女の子の本音を言える場作りをしていく団体「peach heart」の設立に参加した。

また、2012年12月には「女子の暮らしの研究所」を設立。福島第1原発事故を受けてこれまで当たり前だった空気や水、食べ物をはじめ暮らしを取り巻く環境全てをもう一度見直し、一人一人が自分の暮らしを行動できる社会をつくるため取り組んでいる。

トークイベントの本県での開催は初めて。

これからをどう生きていくかの研究などに震災被災者の問題解決などに取り組んでいる同法人ときたかみ復興支援協働体が主催する。

当日は午前10時から11時30分まで。日塔さんが「福島の独身女子がこれからどう生きようとしているのか!?」をテーマに登内代表理事と対談する。

事前申し込みは必要ない。登内代表理事は「福島では独身女性に出産や結婚への不安などの問題が出ている。特に女性の皆さんに福島の実情を知ってほしいし、応援してもらえれば」と来場を呼び掛ける。

問い合わせは、同法人事務局＝03（5778）4871＝へ。

北上

「言葉にできない声を聞く力を失わないで」と呼び掛ける澤口さん

趣向凝らした陶芸作品98点
北上・北陶会が展示会

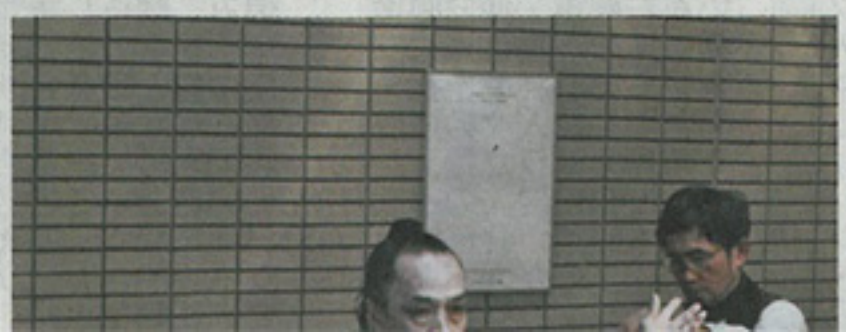
北上市の陶芸サークル「北陶会」（佐藤義雄会長）の第3回冬の展示会は、同市芳町の北上地区合同庁舎内県民ホールで開かれている。会員24人が趣向を凝らした陶芸作品を展示し、利用者の目を引き付けている。27日まで。

同会は同市に居住、通勤する会員60人で構成する陶芸サークル。2012年に結成40周年を迎え、民俗村体験工房の陶芸窯を中心に活動し、陶芸技術の普及と地域文化の振興を目指して活動を続けている。

同展示会には会員1人当たり3～5作品の計98点を展示。大型の茶器や花器のほか、連作のティーカップや人形、絵皿など色、形もさまざまな作品が展示されている。

北陶会が陶芸作品98点を展示している冬の展示会

震災後の詩作や発表内容などに関して語った第１部の対談（右から笠井さん、吉増さん、林さん）



迫力ある身体表現で増さんの詩による

関して発言。吉増さは、甚大な被害を受け陸前高田市で気仙川近

日、北上市本石町の同館で始まった。初日は舞踏家笠井叡さんと詩人吉増剛造さんの対談のほか、吉増さんの詩作や映像作品、笠井さんによる舞踏を披露。表現の最前線で活躍する2人の心に迫る